

古い人を脱ぎ捨て、新しい生き方をする教え（4：25～）の総まとめのような箇所です。

I 神の先行的な恵み「神も、キリスト（神であり人となられたキリストが、私たちの過去・現在・未来のすべての罪の刑罰を十字架の上で身代わりに受けて下さった）においてあなたがたを赦して下さったのです」：32。神の大きな愛と子なる神キリストの十字架の恵みを心から感謝します！

## II 先行的な神の恵みへの応答。31節。

1. 私達の心に住んで下さる御聖霊の力により、捨てるべきもの。私達の心にあるもの。 ①「無慈悲」＝原語：苦さ、苦味、苦々しい感情、苛酷、冷酷。和解を拒否する恨みがましい思い。私達は、侮辱、軽視に対して恨みをじっと心の中に抱き続ける事がある。何度もその事を思い出しては、苦い思いを抱き続ける。苦い思いは、自分自身を蝕んで行く。抑圧された憤怒。これが表に出たもの→ ②「憤り」＝原語：激情、憤怒、激怒。怒りの爆発。これは関係を壊す。 ③「怒り」＝定着した怒りの情。日が暮れるまで怒り続ける。悪への怒りではなく、人を憎む怒り。人を殺す怒り。 ④「叫び」＝憤り、怒りに駆り立てられての叫び。怒り叫ぶ口論。 ⑤「そしり」＝悪口、中傷、悪口・中傷好き。当人不在の所で悪口を言う事。「いっさいの悪意とともに」。「悪意」の原語：悪、悪徳、意地悪・陰険な心、悪い根性。私達の心には、悪意、意地悪な心がある。この私達の罪の為に主は十字架で死なれた。
2. 「みな捨て去りなさい」。一部ではなく、あるものを残してではなく、みな（一つ一つはつながっている）。「捨て去りなさい」の原語の時制：不定過去の命令形＝少しずつ、そのうちにはではなく、きっぱりとの意。「捨て去る」の原語：取り去る、取り除く（「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」ヨハネ1：29。先行する主の恵み）、切り取る。
3. どのようにして捨て去る？ ①まず、自分の心の中に、無慈悲、憤り、怒り、そしり、悪意の罪がある事を認め神に告白し、赦しをいただく。②これらの罪を神に頼り、捨て去る決心をする。その真剣な決心を神は喜ばれ助けられる。神の喜ばれない罪を捨て去ることができるように祈り続ける。御聖霊は、罪を捨てる助け主。

## III 御聖霊が下さる新しい命による新しい生き方。「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦して下さったのです」：32。

1. どうして、私達が互いに親切にし、心の優しい人となる事が可能なのだろうか。それは、まず、主の恵みが先行し、まず主が私達に対して、親切で、いつくしみ深く、優しくして下さるからである。互いに愛し合わなければと律法主義になる前に、まず神の愛と赦しを受け、神に心から愛されている事を深く自覚する事である。「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛して下さったからです」（Iヨハネ4：19）。
2. 「親切にし」原語：親切な、情け深い、慈悲深い。人付き合いにおいて一緒にいても苦痛を感じさせず、人と共感できる思いやり。耳を傾ける愛。「心の優しい人となり（現在形：なり続けなさい）。「心の優しい」の原語：情深い、慈悲深い。「あわれみ深く」（Iペテロ3：8）。人の苦境への深い共感。31節と対照的。無慈悲で憤り易い私達を主は、情け深い、心の優しい人へと変え続けて下さる。
3. 「神がキリストにおいてあなたがたを赦して下さったように、互いに赦し合いなさい」。 ①互いに赦そうと自分の力で頑張る事では無理。私達は自分の力で人を赦す事は出来ない。 ②「神も、キリストにおいてあなたがたを赦して下さった」。まずこの神の赦し、恵みをいつも思い出したい。神が赦され受け入れられた自分を自分でも赦し自分を受け入れる＝自己受容から、他の人を赦し受容する人へ。ある人をなかなか赦せない

時、神の前に静まりたい。そして静かに思い起こしたい。今日まで、いかに自分が神に赦され続けて来たかを！驚くべき恵みを。神の恵みの赦しがなければ、今日、生きておらず、とっくに滅んでいる事を。「キリストにおいて」＝キリストが私達のすべての罪（神への背き、人への憎しみ、恨み、ねたみ、陰口、悪口、うそ、不品行）を背負い、十字架ですべての刑罰を私達の代わりに受けて下さった驚くべき恵み。私達が、人を赦す前に、私達の過去、現在、未来の罪、生涯の罪の負債をまず償って下さった恵みがある！「おまえがあんなに頼んだからこそ借金全部を赦しやったのだ。私がおまえをあわれんでやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか」マタイ18：32, 33。私達は、神にいかに愛され、いかに多くの罪を赦していただいたか、まだまだ深く理解していない。もっともっと深く理解できるように祈り求めたい。神から数えきれない罪を赦された自分は、他の人を赦さない資格はない。

③赦しとは、内住の御聖霊が新しくされた意志の決断、憎み続ける事を捨て、赦す事を聖霊が助けて下さる意志（好きは感情、愛は意志）選ぶ、選択。ひどい事をされた時、最も深い苦悩の中で私達は選択を迫られる。赦したくない感情か神の愛で赦す意志を祈り求めるかの選択。神に頼り、人を赦すと神との深い交わりが回復し自分の心が癒される。和解か復讐か？憎しみは、自分自身を深く傷つけ、自分自身の心を蝕んでいく。神との幸いな交わりが持てなくなる。報復は連鎖を生む。兄弟姉妹、子供へ。十字架の主は、報復の鎖を断ち切って下さるお方。自分を殺そうとする人々の為、そして私達の為「父よ。彼らをお赦してください」（ルカ23：34）と祈られた主。私達を愛し赦して下さる神に頼り人を赦す（まず自分が赦された恵みを感謝し、赦す愛を与えて下さいと祈りつつ）時、心に真の自由、恵みを与えられる。赦しは一度限りではない。赦せない気持ちが再び襲ってくる。その度に赦しの神に祈り、赦す事を選ぶ。「赦しなさい：現在形＝赦し続けなさい」。そうすれば自分も赦されます（人を赦していない罪を赦される）。与えなさい。そうすれば自分も与えられます」ルカ6：37, 38。

④神が「あなたがたを」赦して下さったとある。神の赦しとは、私達の罪を赦すだけではなく、私たち自身を赦し、愛し、受け入れて下さる、御父と御子との交わりの中に御聖霊により迎え入れて下さる。神は私達に「私はあなたを愛している。わたしの目には、あなたは高価で尊い」と語り掛けておられる！この神の愛、赦しを私達が受け続ける時、私達も、家族、兄弟姉妹、隣り人の罪を赦し、その人自身を受け入れ愛し交わりを保つ者に変えられて行く。

⑤私達に不足しているものがある。それは、どれほど多くの罪を神が赦して下さったかを深く自覚していない事。祈りたい。もっと深く神の愛、主の恵み、自分の罪深さを知り続けることができるように。キリスト者が、成長し続けるとは、自らの罪深さを知り続け、キリストの十字架の苦しみと恵みの有り難さ、神が、愛するひとり子のキリストを私達の代わりに十字架で罰し、私達を完全に赦して下さる（「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます」Ⅰヨハネ1：9→神への告白、おわびした罪は、二度と思い出されない「わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ」ヘブル8：12。二度と責められない。私たち人間は、一度赦したつもりでも、再び責める弱さがある。お互いに！神の大きな愛を知り続け感謝しましょう。

#### Ⅳ 励まし

「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろくな。わたしがあなたの神だから」イザヤ41：10。私達が、ともにいたい人は、どんな人だろうか？それは、愛する人である。恵みとまことに満ちた全能の神が、私達とともにいて下さるのは、私達を心から愛して下さっているからである！